

四旬節第三主日

ルカ 13 : 1-9

2013.3.2 18 : 30 ミサ

今日の聴いた福音のことばは、私たちが暗い気持ちにさせるように思えるかもしれません。けれども、私たちがそう思ってしまうのは、これらのことばをイエスさまの福音のおことばとして受け止めきれていないからであるかもしれません。

今日の福音の前半では、「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」という私たちには不気味に思えるおことばが響いています。イエスさまがこのようなおことばを語られたのは、当時の人々に大きな衝撃を与えた二つの出来事を契機にしてのことだと語られています。その一つは、ユダヤ人の祭りの時に、ローマ総督ピラトが、ガリラヤで起こった暴動の首謀者たちを処刑したというニュースです。もう一つの出来事は、建設途中であったのでしょうか、あるいは老朽化していたためでしょうか、エルサレムのシロアムの塔が倒壊して、多数の犠牲者が出たというニュースです。このような出来事は、私たちの身の回りにも、毎日のように今日のニュースとして伝えられている出来事と変わるものではありません。そのようなニュースに接するたびに、私たちもそれらの出来事の犠牲になった人々を気の毒に思い、このようなことが起こる社会に対して暗い気持ちになります。今の時代の私たちは、あの時代の人々とは比べものにならないほど、毎日のようにこのような出来事を伝えるニュースに接しているので、その一つ一つを心に留められなくなってしまうかも知れません。

そのような私たちに、今日の福音を通してあの時と同じように、「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」とイエスさまは語りかけておられるのです。今日の福音に語られている、このようなニュースに接するたびに私たちはその事件や出来事に巻き込まれて犠牲になった人たちのことに心を傷め、そのようなことがいつ何時自分の身に降りかかるかも知れないという漠然とした不安を感じますが、多くの場合それ以上に深く心に留めないままに過ごしていることのほうが多いのではないのでしょうか。心の中に感じる漠然とした不安に一々気を止めていては、生きてはいけない現実の中に私たちは身を置いているからです。けれども、そのような私たちにもいつかは確実に、思いもかけない仕方でのこの世の私たちのいのちが突然に断ち切られる時が襲いかかるのです。

「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」というイエスさまのおことばは、この厳然たる事実に関心を向けるようにと私たちに促しているのです。

けれども、イエスさまがもたらしてくださる福音は私たちの心の目をこのような現実の先へと向けさせようとしているのです。いつかは断ち切られるこの世のいのちを生きる私たちに、この現実の理不尽さに打ち負かされることのない、神のいのちにつながるいのちのありようを示すために、イエスさまは神のもとから私たちが生きるこの世界に来てくださったのです。私たちはそのイエスさまを信じて、イエスさまが約束しておられる永遠のいのちに向かう生き方を、洗礼によって受け入れたのです。私たちの教会のミサも、カトリック信者として私たちが祈る祈りも、すべて、そのことに向けて祈る祈りであり、そのことに向けてささげられるミサです。

「悔い改めなければ、滅びる」という今日のイエスさまが私たちに呼びかけておられる悔い改めとは、この暗い世相の中に生きる私たちが、イエスさまの十字架の死を越えた復活の永遠のいのちが指し示す、信仰によって与えられたこの世のいのちを越えた、それこそが私たちにとっての真実のいのちに目覚めて生きることを私たちに呼びかけておられるのです。

今日の福音の後半でイエスさまが語っておられるイチジクの木のとえ話も、私たちの気持ちをいたずらに暗くさせるかもしれません。自分のありようを反省すると、私たちは、自分が実を結んでいないイチジクの木のようなものであると思わざるをえないところがあるからです。しかし、まさにそう思い込んでしまうことによって、つまり、私たちは自分で満足の行く実を結ぼうとして、このたとえ話を語ってくださったイエスさまの思いから反れてしまっているかもしれません。イチジクの木に求められている実は、イチジクの木をイチジクとして植えてくださった神さまが求めておられるイチジクの実です。イチジクの木は神さまのブドウ畑の中に植えられているのです。神さまの恵みの園の中にイチジクの木として植えられた私たちは、切り倒されてしまうことだけを畏れなければなりません。

今年も迎えている四旬節、そして、私たちの信仰の中心である過ぎ越しの聖なる三日間と復活祭において、私たちのために十字架に架けられて、そのいのちを私たちのために与え尽くしてくださったイエスさまのいのちに潤される恵みを願って、今晚のこのミサをともにおささげしたと思います。今日のミサの中で聞いたイチジクの木のとえ話でイエスさまはそのことを私たちに語りか

けていてくださるのだと受け止めて、この四旬節の時を私たちの信仰の再生のための時として生きてゆきたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高